

婦人科がんサバイバーのメンタルヘルスとそのケア

小川 真里子／高松 潔

Summary

婦人科がんの罹患者数はいずれも年々増加傾向にある一方、医療技術の向上によりがんを克服しサバイバーとなる女性も増えている。そのため、近年ではがんサバイバーのQOLにも注目が集まってきた。

婦人科がんの治療は卵巣機能の途絶を伴うことが多く、それがメンタルヘルスにも影響する可能性がある。また、婦人科がんのなかでも特に子宮頸癌サバイバーはうつや不安を訴えるリスクが高いといわれる。

メンタルケアの目的でも、特に外科的閉経となった症例では必要に応じてホルモン補充療法(HRT)を行うことが有効であると考えられる。

Key words

婦人科がん
がんサバイバー
メンタルヘルス
ホルモン補充療法

はじめに

画像診断や手術の技術が向上し、治療の選択肢も大幅に増えた現代においても、悪性腫瘍はわが国の最も主要な死因である。2017/2018年の国民衛生の動向によると、2016年の死亡数・死亡率を死因順位別にみると、男女ともに第1位は悪性腫瘍であり、1981年以降1位でありつづけている。女性においての部位別統計では、乳癌が悪性新生物死亡全体の9.2%、子宮癌は4.1%を占めている¹⁾。

また、がんの罹患者率については、国立がん研究センターの癌情報サービスによると、女性で最も罹患者率が高い悪性腫瘍は乳癌であり、特に40歳台では乳癌、子宮癌、卵巣癌の罹患者が多くを占める²⁾。子宮頸癌、子宮体癌および卵巣癌の罹患者数および死亡者数の推移を図1に示すが²⁾、罹患者数および死亡者数ともに、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌のいずれも増加傾向がみられている。一方、それぞれの部位別5年生存率は、子宮頸癌で73.4%、子宮体癌81.1%、卵巣癌58.0%と報告されており²⁾、多くの女性がサバイバーとなり生活していることがうかがわれる。

子宮癌、卵巣癌をはじめとする婦人科悪性腫瘍の治療では、子宮や卵巣の摘出による女性性の喪失や骨盤臓器への合併症など、婦人科腫瘍特有の心身への影響が考えられる。本稿では、婦人科がんサバイバーのメンタルヘルスとそのケア、ホルモン補充療法(hormone replacement therapy; HRT)の可能性について、最近の知見を交えて概

Mariko Ogawa

東京歯科大学市川総合病院産婦人科准教授

Kiyoshi Takamatsu

東京歯科大学市川総合病院産婦人科教授